



田んぼわらしの **ささやき**

田んぼ 10年だより

第9号 2017年3月25日発行

田んぼの生物多様性向上10年(略称:田んぼ10年)ニュースレター
 発行: NPO法人ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ) 水田部会
 所在地: 〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F
 TEL/FAX: 03-3834-6566 電子メール: info@ramnet-j.org
 ホームページ: http://www.ramnet-j.org

目次

1. 第2回田んぼ10年プロジェクト全国集会 in 川越報告 ラムネットJ 安藤よしの 1~3
2. 第6回田んぼ10年プロジェクト地域集会 in いすみ報告 ラムネットJ 金井 裕・安藤よしの. 3~5
3. いすみの谷津田に魅せられて 千葉工業大学 地圏環境工学研究室 竹内舞子..... 6
4. 水田部会からのお知らせ/新規登録者紹介他 7

田んぼだより第9号は、2月18日開催の田んぼ10年プロジェクト全国集会 in 川越と、2月25・26日に開催された第6回田んぼ10年プロジェクト地域交流会 in いすみの報告特集です。集会はどちらも地域の人々が多数参加し、エクスカーション、展示・ポスターセッションなども実施され、中身の濃い取り組みとなりました。田んぼだより9号ではその一部しか報告できないのがとても残念です。また、いすみ市で谷津田の再生や流域の循環型一次産業を目指して活動する千葉工業大学の学生さんのレポートを紹介します。田んぼ10年もたくさんの新しい仲間とともに、4月から新年度の活動のスタートを切ります。

* * * * *



1. 2月18日開催 第2回田んぼ10年プロジェクト全国集会 in 川越報告 ラムネットJ 安藤よしの

第1部エクスカーション「小江戸川越・圃場などの見学」

第2部全国集会基調報告1「田んぼ10年プロジェクトとは」(ラムネットJ 共同代表 呉地正行)については以下のサイトに詳しく報告されていますのでこちらをご覧ください。 <http://koedo.info/170220tanbo10/>

全国集会 in 川越の協力団体、「NPO 法人カワゴエ・マス・メディア」は集會に密着取材し、一部のエクスカーションと二部全国集会の基調講演(ラムネットJ 呉地正行氏・太田 洋いすみ市長)についてHPで詳しく報告しています。二部後半部分も後日掲載予定とのことです。田んぼ10年だよりではいすみ市長の基調報告と、地域からの報告発表、ポスターセッション、展示等について報告します。

第2部 基調報告2「いすみ市の取り組み」

いすみ市長 太田 洋

『太田いすみ市長の報告をぜひ聞きたい』という川越のスタッフの強い要望により、全国集会で市長に講演していただきました。「子どもたちの将来のために・地域の人々と一緒に・持続可能な地域づくり」というテーマが市長の報告の中でくり返しのべられ、これらが市の取り組みのベースになっていることがよく理解できました。いすみ市では先に、専門家や地域の人々の手により優れた生物多様性地域戦略ができています。そこに記載された項目を実現させていくことを重要課題とし、田んぼ10年の取り組みでも民間稲作研究所稲葉光國さんの指導を受け、「生物多様性を活用した有機農法」の優等生となっています。学校給食を100%有機米にする取り組みも近いうちに実現されます。いすみ市の特徴である森~川~海の生態系のつながりを大切にしながら、持続可能な一次産業を基盤とし、様々な取り組みを展開中です。

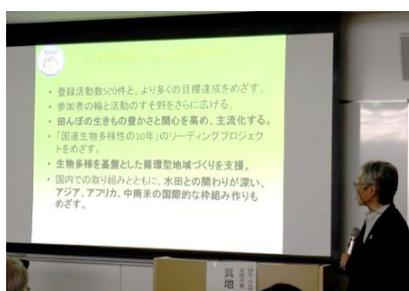
第2部 川越からの報告①

かわごえ里山イニシアティブ代表 増田純一

かわごえ里山の3つのコンセプトは①みんなで連携②生きものの賑わいを取り戻す③生きものと共生して、つながりを広げることで、具体的な活動としては生物多様性有機農法で環境に優しい田んぼ(米作り、マコモ作り)活動をしています。2016年には民間稲作研究所の研修を受け稲作技術を学び、実践しています。平成28年度の「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する認定連携事業ともなりました。また現在の重点課題は水の安定供給のための井戸掘りプロジェクトで、この井戸は地域全体を潤すこととなります。ピオトープづくりにも取り組んでいます。今後も有機稲作のモデル田んぼを通して、永続的暮らしの学びと体感できる新たな観光地を川越から発信していきたいと思ひます。



全員で集合写真



呉地正行氏



いすみ市長 太田洋氏



増田純一氏



田んぼで説明する高梨耕治氏



齋藤文字氏



小田原食とみどり活動のようす

川越からの報告②

耕福米耕作人 高梨耕治氏「自然にやさしい 福田田んぼ活動」

耕福米の原点は、美しい村の景観。土地改良・農道整備された優良圃場もやがて後継者がいなくなり雑草が繁茂した田んぼになるでしょう。そうさせないために美しいふるさとの田園風景を残す努力をし、田んぼに農業従事者だけでなく消費者が関わるような取り組みを進めています。そのためにも除草剤も化学肥料も使わず水を汚さない農業・消費者の健康を考える農業を実践しています。福田の田んぼの提案は、日本人の「食」を支える「米」「田んぼ」に関わる事で、生物多様性を育む自然を継続させると共に普段農業に接することの少ない市民が米作り（収穫等）を体験することで農業の大切さや農地を次世代に継続していくことの重要性を感じられるようアピールする事業の実施です。

第2部 各地からの報告①

蕪栗沼伸萌地区ふゆみずたんぼ生産組合副会長 齋藤 肇

蕪栗沼伸萌地区のふゆみずたんぼで米作りをしています。ラムサール条約湿地「蕪栗沼・周辺水田」や「化女沼」には毎年冬期に大型の水鳥であるマガンやヒシクイといったガン類が多数飛来し、「ねぐら」として利用しています。近年マガンの羽数が急増し、多い時には蕪栗沼で約13万羽、化女沼で2万羽ほどが「ねぐら」として利用しています。これらの鳥が日中の多くの時間を過ごす田んぼでの分布や利用状況について調査し、習性や行動を知るための調査もやっています。初めはふゆみずたんぼに反対だった父親が実は応援してくれていたことがわかり、それを機にものすごくまじめに取り組むようになりました。現在ではマガン関係で日本各地と交流もできるようになりました。ここ川越にもマガンがもどってくるよう願っています。



齋藤肇氏



蕪栗沼に飛来するガン類

各地からの報告②

小田原食とみどり事務局長 齋藤文字

NPO 小田原食とみどりが活動を始めて15年になります。パルシステムの組合員と生産者の交流が発展したものです。主な取り組みとして・耕作放棄地の活用→食農環境教育「小田原農の学校」・地域内連携→農家/JA 青年部/林業 他・市の指定管理者→会館管理/企画運営（2施設）などがあります。このような活動の中で、2015年12月に田んぼ10年プロジェクトに「田んぼの学校」で参加登録しました。2002年の開校以来、岩淵成紀氏（NPO たんぼ）、稲葉光圀氏（民間稲作研究所代表）をお招きしての学習会や研修会等も開催しています。田んぼではコース別に環境に優しい米づくり体験を行い観察会、収穫祭なども実施してきています。学校で育った人々の今後の活動の場づくり等、ともに考えながら進めていきます。

各地からの報告③

有限会社 ゆうま ぶどうの樹 ほっこり農園 加悦典子

福岡県遠賀郡岡垣町は九州の最北端、川越市から1090Km離れた場所にあります。ゆうまぶどうの樹では「ここにしかない田舎」を合言葉に、地元のものにこだわり、地域のものをまるごと活かすレストラン・結婚式場を運営しています。関わる皆が幸せになれる仕組みづくり：一次産業（生産者）・二次産業（加工業）・三次産業（サービス業）の地域内6次産業化めざしています。私が担当している「食育体験ファームほっこり農園」では地元の有機農家や小中学生も参加して、ふゆみずたんぼ・田んぼビオトープなどを実施し、米づくり体験を通じた環境学習を行っています。他の地域から持ってきたドジョウを放して失敗した体験もありますが、これからは専門家の意見を聞きながら楽しく元気よく進めていきたいと思っています。



加悦典子氏



食育体験のようす



第3部 参加団体の展示と交流タイム

会場の後方のパネルには、申し込みのあった田んぼの生物多様性向上に取り組む約20の団体が展示を行いました。集会終了後5時からそれぞれの活動を短く紹介する、「1分間アピールタイム」が設けられ、クッキーや農産物を手に各団

体から楽しくわかりやすい説明がありました。ここでは写真のみを掲載させていただきます。参加団体名などは後日「ラムネットJ」のHPで報告いたします。



2. 2月25・26日開催 第6回田んぼ10年プロジェクト地域交流会 in いすみ報告

① エクスカーション「夷隅川（いのちの回廊）によってつながる、いすみ市の里山と里海」報告ラムネットJ金井 裕

2月25日の13:30、いすみ川流域の海から丘へ、自然と田んぼを巡るエクスカーションの現地バスツアーは、いすみ市大原文化センターを出発しました。

*コハクチョウの越冬地の視察

最初はいすみ市で冬を過ごすコハクチョウの見学。約160羽のコハクチョウたちは水のたまりやすい水田で採食中。ここはコハクチョウの日本の越冬地としては南限となっていますが、ハクチョウのために水張や人工給餌やといった特別の施策は一切行っていないとのこと。

*行元寺と下の谷津

次いで、東頭山行元寺へ。立派な山門をくぐった先の本堂には絢爛豪華な高松又八作の彫刻があるが、最大の目的は別間の欄間ある初代伊八による波の彫刻。沖の大波を映した彫刻は、波の伊八と称されるだけあって見事なものでした。ここに来たもう一つの目的は、境内から寺の隣にある「下の谷津」で千葉工大のチームが行っている復元谷津田と水環境の調査場所を見ること。工学部の学生が田んぼを復元して水

質や生きものの調査を行い、谷津田の重要性を研究しているというのは、それだけでも興味深いです。若者が地域に関わっているというのもうれしいことです。

*みねやの里視察

時間が押してきたため、予定していた万木城展望台からの周囲の俯瞰は省略し、集落ごと農事法人化して有機農法を展開しているみねやの里へ移動。コウノトリが飛来したという水田には、房総名物の菜花の畑もあり、収穫後に残った菜の花で黄色く染まっていました。集会所で、発足の経緯や農作業のことを聞いたあと出立。

*太東崎灯台

最後は、太東崎の岬から、夷隅川河口と太平洋を見渡し、海底に広がる里地の丘陵地に似た地形が伊勢エビをはじめとする豊かな海の幸の源であることの説明を受けました。おりしも、夕焼け空に雨雲が襲来し、エクスカーションの終了となりました。



水田で採食するコハクチョウの群れ



下の谷津



菜の花



夷隅川河口と海

② 2月26日 9:00~16:00 地域交流会 in いすみ報告 ラムネットJ 安藤よしの

地域交流会 in いすみは、太田 洋いすみ市長の主催者挨拶、農水省関東農政局小林富夫氏・国交省関東地方整備局の伊藤和彦氏の来賓あいさつで始まり、基調報告1ではラムネットJ共同代表呉地正行氏が田んぼの生物多様性向上10年プロジェクトの報告をしました。



稲葉光國氏

*基調報告2「生物の多様性を活用した循環型低コスト有機稲作」民間稲作研究所 稲葉光國

生物の多様性と農業技術の中心テーマは、水田に関係する生物多様性を豊かにするだけでなく、多様な生きものの力を活用して農薬や化学肥料を使用しない有機農業の技術確立です。**生物の多様性を活かした抑草技術**：現在までに様々な手法が開発/実証されてきています。また水田で稲一麦一大豆を作付し、水田を乾燥させ畑状態にして雑草を防除する方法もあります。大豆は自給率が5%以下で、自給率を高めることが望まれており、窒素固定能力にも優れており、地球温暖化対策にもなります。**生物の多様性を活かした害虫防除技術**：農薬を多用する慣行栽培圃場でウンカや耐性カメ

ムシの異常発生がみられます。農薬を全く使わず生物の多様性を育む努力をしてきた稲葉農園ではほとんど発生を見ません。生物の多様性による害虫管理（IBM）こそ持続的で低コストの害虫防除技術として科学的に裏付けされ、普及されるべき技術です。**いすみの風土農産物**：夷隅川を中心に広がる水田は豊かな腐植に富んだ土壌であり、同じ恵みを受けて育ち栄養価に富んだ資源である海藻やエビといった海産物やその食品残渣を土着微生物の餌として提供し、その分解物を田畑に還元することによって、いすみ米をミネラルバランスの整った価値あるお米に育て上げることが可能です。ミネラル不足に悩む現代の様々な疾病の治療にも役立ちます。安全な農産物の地域での確保、地域経済の再生、学校給食有機米100%の実現等に向けて先頭を走るいすみ市の先進的取り組みの成功を祈っています。

*リレー報告

「いすみ市に飛来するコウノトリとコハクチョウ」

布留川毅（千葉県野鳥の会幹事）

「水田ビオトープを巡って」

滋賀慶介（いすみ市地域おこし協力隊）

「有機稲作モデル事業の成果と発展」

矢澤喜久雄（環境保全型農業連絡部会 部会長）

「資源の地域循環/海藻の活用」

手塚幸夫（房総野生生物研究所）

「学校給食全量有機米の取り組み」

鮫田 晋（いすみ市 農林課）

ここでは、いすみ市で田んぼの生物多様性向上に取り組む5名の方からそれぞれの活動報告がありました。いすみ市はかつてコウノトリ舞う里山だったこと、いすみ市の谷津田環境を活かしたビオトープづくり、有機稲作モデル事業、里地里海の資源循環（海藻の肥料としての有効性の実証に向けて）、学校給食全量有機米にいたるまでの経過とこれからの活動などについての発表があり、さらに、手塚さんの発表の中では、千葉工大の学生、竹内舞子さんがいすみ市の里山関連の活動を報告しました。



布留川毅氏



滋賀慶介氏



矢澤喜久雄氏



手塚幸夫氏



鮫田 晋氏

*** 国吉小学校 5 年生の発表「田んぼと里山と生物多様性」**

国吉小学校の 5 年生は田んぼ体験を通じて生物多様性を学んでいます。この日は、担任の市川先生の指導のもと、子どもたちが自ら体験した田植え～収穫までの出来事を、農作業や生きもののかかわりを中心に、歌を交えた芝居で披露してくれました。活動の様子を描いた絵なども披露され、終了後は全農の田んぼの生きものファイルと、コナギクッキーが配られました。市川先生の話では、「この活動を通じて、子

もたちの学校給食に対する態度が変化し、回りにも大変よい影響を与えた。」とのこと



子どもたちにコナギクッキーを配る 安藤よしの氏



*** 報告「小山市の実践と第 4 回生物の多様性を育む農業国際会議」**

小山市渡良瀬遊水地ラムサール推進課課長 岡部初夫

2012年にラムサール条約湿地として登録された渡良瀬遊水地は小山市が世界に誇る宝です。小山市では「コウノトリ・トキの野生復帰」「環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進」などが計画されており、コウノトリの巣塔の設置、ふゆみずたんぼ・なつみずたんぼなど、様々な取り組みが進行中です。市民への普及啓発の推進ということでは、2016年8月26～28日、「第4回生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA）2016 in およま」を開催しました。ICEBAは、これまでに豊岡市（2010）・佐渡市（2012）・大崎市（2014）・小山市（2016）で開催されています。3日間で基調講演・海外事例報告・パネルディスカッション

・エンタスカーション・6分科会・関連イベントなどが開催され、7か国からのべ2,000人が参加しました。最終日には小山宣言が採択され、その英語版は国際条約会議でも展示・配布されました。ICEBA2018はこゝいすみ市で開催されることが決まっています。小山市は、いすみ市でのICEBA2018を応援しています！



岡部初夫氏

*** パネルディスカッション パネラー：呉地正行・稲葉光國・矢澤喜久雄・手塚幸夫・鮫田 晋 コーディネーター：船橋玲二**

これまでの発表を受けて、いすみ市が今後目指すところや目標達成のために必要な活動などに焦点を当てたディスカッションが行われました。・地域の生きものを知り活かす・生物多様性を活用する技術を確立する・自然の循環機能を維持する（ヨーロッパのように農場内循環の原則を取り入れる）・慣行農業者にも気づかいしながら有機でブランド化を進め

る・IBMの考え方（生物多様性を利用した防除方法—農産物に影響が出ない範囲で病害虫もいたほうがよいとする）を主流化するなどが議論されました。そして、いすみ市でのICEBA2018はこれらの議論を深め、実証していくことで成果を出せるだろうと、パネラー全員の意見が一致したところで交流会の幕が閉じられました。



各地の活動紹介

千葉県

いすみの谷津田に魅せられて

谷津田での活動

地圏環境工学研究室では、2015年3月からいすみ市荻原の谷津田で活動しております。“谷津田”は、細長い谷の間につくられた水田です。人と自然が共存する里山独自の自然環境をもち、周囲の森林から供給される水によって稲作がおこなわれています。谷津田の大きな特徴は、森林と水田が直接つながっているところであり、森林には水田を支える役割があるのではと考えております。森林と水田をみることで、谷津田の魅力を科学的に証明できないかという心持から研究をしております。谷津田は現在、様々な理由から耕作放棄され、里山の環境が失われつつあります。荻原の谷津田も例外ではありません。しかし、現在は谷の入口から徐々に耕作復興されています。

私たちは月2回程度、水質や水田の土壌、生物の調査をおこない、その中で谷津田の自然に触れ、様々な生物に出会いました。復興段階の谷津田ではありますが、そこに構築された多様な生態系に魅了されました。昨年度からは、耕作放棄地

千葉工業大学 地圏環境工学研究室 竹内舞子

を耕し稲作をおこないました。イネは順調に育ち、収穫を心待ちにしておりましたが、収穫直前にイノシシの被害に遭い、全滅してしまいました。悔しい気持ちはありますが、これも谷津田の現状だと受け止めています。今年度も引き続き、水質や水田の土壌、生物の調査をおこないます。加えて、周囲を囲む森林を小型無線飛行機によって現状をモニターしていきます。

里山里海の循環を考えて

今年度は、谷津田だけでなく里山と里海のつながりに着目していきます。こちらの研究は、房総野生生物研究所の手塚幸夫先生と共同でおこなっていきます。里山から豊富な栄養分が供給されることで豊かな里海が構築されているとすると、里海から里山への物質還元が必要不可欠であると考えます。そこで、未利用資源である海藻に着目し、農地に施用することで里山里海の循環が構築できると考えております。また、農地の土壌微生物の栄養分や住処となることで、施用農地へマイクロバイオームの構築を目指しております。



耕作復興作業の様子



実際の調査風景
(採水の様子)



いすみ市荻原の谷津田
(谷の入口から撮影したもの)

水田部会からのお知らせ

*ラムネットJ田んぼ10年のHPをリニューアルしました。

以下をご覧ください。

www.ramnet-j.org/tambo10/

これから必要な情報を追加していきます、どうぞ宜しくお願いします。

*今後の集会予定

- ①第7回田んぼ10年プロジェクト地域交流会 in 小田原（詳細未定）
日時：6月18日（日）13:00～ 午前中はミニエクスカーション開催
会場：神奈川県小田原市曾我岸531 梅の里センター（下曾我駅横）
共催：NPO法人小田原食とみどり
- ②第3回田んぼ10年プロジェクト全国集会 in 秋葉原（詳細未定）
日時：8月19日（土）もしくは8月20日（日）
会場：秋葉原周辺
基調報告：FAO 持続可能な農業プログラム主任 Matthias Halwart 氏

■田んぼ 10 年プロジェクト 新規登録者のご紹介 (2017 年 2 月～2017 年 3 月)

171	千葉県	個	伊大知 衛
172	千葉県	個	斉藤 芳市
173	千葉県	個	實方 栄治
174	千葉県	個	高橋 哲夫
175	東京都	個	大橋 良行
176	千葉県	個	大曾根 敏和
177	千葉県	個	千葉 崇文
178	千葉県	個	海老原 由樹
179	千葉県	個	竹内 舞子

180	埼玉県	個	川島 由利子
181	埼玉県	個	高橋 理恵子
182	埼玉県	個	大堀 聡
183	埼玉県	個	松岡 壽賀子
184	東京都	個	井上 輝子
185	埼玉県	個	黒田 真智子
186	埼玉県	個	柏井 喜代恵
187	千葉県	個	ウイリアムズ 和栄

川崎市での全国集会といすみ市での地域集會会場にて、多くの皆さまに参加登録いただきました。ありがとうございました。

<世界農業遺産> 宮城「大崎耕土」申請へ

(出典：河北新報 3月15日)



巧みな水管理が育んだ大崎耕土の景観 (大崎市提供)

農林水産省は14日、宮城県大崎地方の水田農業地帯「大崎耕土」など3地域を、国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産に新規申請することを決めた。3地域については、農水省が本年度創設した「日本農業遺産」にも同日付で認定しており、生物多様性保全や農村文化継承などの観点から世界的にも重要な地域と判断した。大崎耕土が世界農業遺産に認定されれば東北で初めてとなる。

2017年度中に申請し、その後1年以内に審査される見通し。早ければ今秋にもFAO本部の会議で認定される可能性がある。

3地域は「『大崎耕土』の巧みな水管理による水田農業システム」のほか、「静岡水わさびの伝統栽培」（静岡県）と「にし阿波の傾斜地農耕システム」（徳島県）。

「大崎耕土」は面積約3万ヘクタールで、大崎市と美里、

涌谷、加美、色麻の近隣4町にまたがる。気象の変化に応じた水管理や、家屋を取り囲むように植えられた屋敷林「居久根（いぐね）」を生かした先人の知恵で、冷害や洪水、濁水を克服してきた。

同地域は、14年に「水鳥を育む湿地」に焦点を当て申請の対象を目指したがかなわなかった経緯がある。高度な水管理などの特長を強調し再挑戦していた。

静岡のワサビは、沢を開墾した階段状の農地で湧水の養分のみで栽培する農法。徳島県つるぎ町などでは、急傾斜地に力やをすき込み、独特の機具を用いて雑穀などを栽培してきた。

日本農業遺産にはこのほか、武蔵野の落ち葉堆肥農法（埼玉県三芳町など）や雪の恵みを生かした稲作やコイ養殖（新潟県中越地域）など5地域が認定された。

世界農業遺産と日本農業遺産候補の公募には15県19地域から応募があり、専門家会議が審査した。次回公募は18年の予定。

〔農業遺産〕世界農業遺産は、伝統的農林水産業とそれによって育まれた文化と景観、生態系を保全し、次世代へ継承するため、重要な地域を認定する仕組み。国連食糧農業機関が2002年に創設した。16カ国の37地域が認定済み。日本には「能登の里山里海」（石川県）「トキと共生する佐渡の里山」（新潟県）など8地域がある。補助金などの支援はないが、農産物のブランド化や地域活性化の効果が期待される。日本の認定数は中国に次いで多く、今後は狭き門になるとみられるため、農水省が16年度、国内版の「日本農業遺産」を創設した。





田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクトにご協力ください。



MS&AD
MS&ADインシュアランスグループ

co-op
コープネット 事業連合
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

連絡先/事務局

ラムサール・ネットワーク日本
info@ramnet-j.org
FAX:03-3834-6566



田んぼ 10年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加し、国連生物多様性の10年日本委員会の連携推進事業に認定されています。



このニュースレターは、平成28年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。

